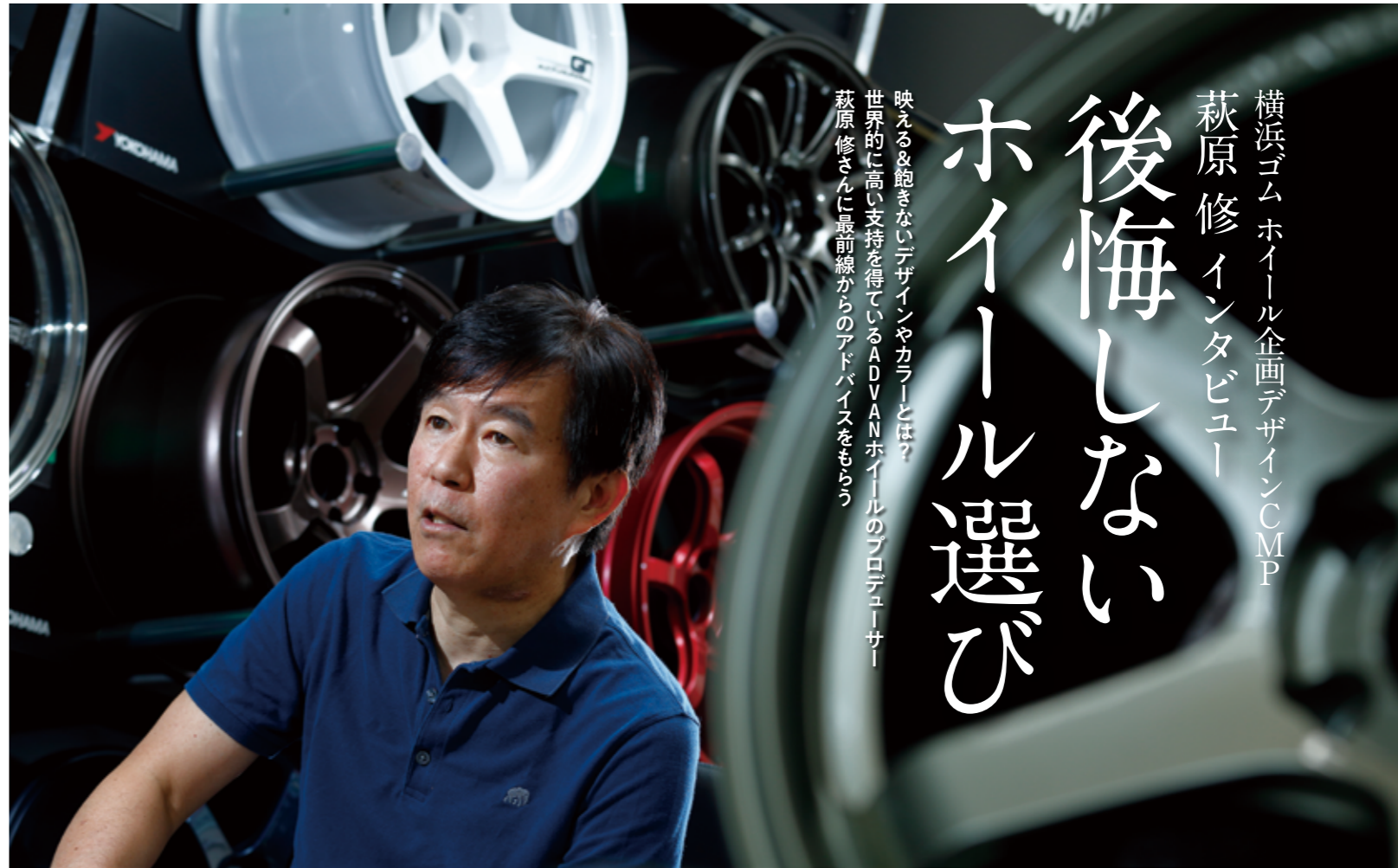


横浜ゴム ホイール企画デザインCMP
萩原修 インタビュー

後悔しない ホイール選び

映える&飽きないデザインやカラーとは？
世界的に高い支持を得ているADVANホイールのプロデューサー
萩原修さんに最新線からのアドバイスをもらおう



究極の答えとしては「長く好きでいられるホイールを選ぶこと」で、そのためには「自身の好みがぐらつかないこと」なんだけど、それでは納得しないよね？

ホイールは部屋に飾っておくものではなく、クルマと一体になって、クルマのかっこよさを引き上げるものだから、そういう考えで臨んだほうがいい。ここでは、つくり手の立場から、そして、「後悔しない……」を実践しているユーザーのひとりとしての経験から、ヒントを伝えられればと考える。

「昨年、ステップリムでもちよっぴりレトロなRGRD2を出したとクルマと一体になってクルマのかっこよさを引き上げる

IIIとTC4では入れ方が違う。前者はガッツリだけど、後者は2カ所しか入れない。サイドカットとスポークには理想的なバランスがあるからだ。それについては、RSIIやRS-DFの頃と比べると、たしかに進化の跡が残っている。

「リムが出てくるホイールがいい」という声は「リムが出ていて大径にも見えるホイールがいい」という欲張りな声に変わってひさしい。それに応えるには、リムへのスポークのつなぎ方が肝になる。たとえば、大きなRと小さなRを組み合わせた、そうやって、そこに立体感や造形的な一体感を生み出している。

すると、ディープリムなのに足長に見えるとか、小径なのに大きく見るとか、大径の同じモデルと比べて、小径でもスポークからリムへのつながりがデザイン的にシヨボくないとか、そういう視覚的効果に結びついていく。それを聞いちゃうと、「やっぱり、最新のホイールがいいよね」とってことになっちゃうか？

あと、「デザインのためのデザインは飽きられる」。余計なディンプルやホールは足さな。アドバンレーシングでいえばセンター部分のデザインなど、一貫して変



Kansai SERVICEのVAB WRX STI。GT BEYONDの「コッパーブロンズ」を履く。萩原さんがこだわり抜いた最新のブロンズカラーはR6(18インチ)にも用意される



TC-4「レーシングホワイトメタリック」を装着するオリジナルランデュースのA90 スーブラ。ホワイトはメタリックを入れて上質感と深みを出している

取材協力:タイヤガーデン 駒岡
神奈川県横浜市鶴見区駒岡5-16-1
TEL 045-570-0731

ADVAN Racing や AVS の最新モデルがズラリと展示され、それらのホイールに精通したスタッフがカスタマイズをサポートしてくれる。萩原さんのポルシェ 991 GT3RS、981 ボクスターS、FD3S RX-7、アバルト 595 をメンテしている



GTR デザインの波は 15、16 インチにも……。6.5J から選べるようになってきた。大サービスだ。写真は 16 × 6.5J の RZ II を履く ND5RC ロードスター



18 × 9.5J からはスーパー GTR デザインが選べるようになっている。頑張って履きたくなるサイズ。写真は RS III 装着のオリジナルランデュース 86



一昨年にステップリムの RG-D2 を発売したら、対称的に長いスポークの RG III にも火がついた。息が長いデザインは重要。Kansai SERVICE ZC33S 鈴鹿にて



Kansai SERVICE の S660 はフロントこそ 16 × 6.5J の STD デザインだが、リアに 17 × 7.5J の GTR デザインを履く提案。K スポーツにも GTR デザインの時代だ



サイドカットがないホイールは古く見える。とくに鍛造ホイールはそう。ADVAN Racing も最新モデルはほとんど入っているが、入れ方にはスポークとの理想的なバランスがあるという



リムがあって大きく見せるデザインも先進的设计ノウハウ

わからない(ように見える)アイデンティティも必要だ。

次は色。しばらくは黒が流行っていたけれど、黒の欠点は「離れると何かわからなくなる」と。僕の中では「黒からの脱却」と「黒でもディテールを出したい」という方向性が生まれた。艶ありの黒がいちばん出づらく、艶消しのマットは使っているうちに粗目になって白けちゃうこともある。そこで、真っ黒な「グロスブラック」↓メタリックの量を増やして発色量を高めた「チャタブラック」へと行きている。

ブロンズもいろいろ試して、い

デザインのためのデザインは飽きる
ディテールが出る色が新たな潮流

でも6.5Jからコンケイブのある「GTRデザイン」が選べるようになっていて、18インチでは8.5J~9.5Jくらいまで「GTRデザイン」で、9.5Jからはコンケイブが深い「スーパーGTRデザイン」が選べるようになって

頑張って履こうとすると、ひとつ上のコンケイブが狙える。そうすると車高も下げなきゃいけないし、キャンバーもつけなきゃいけない。だけど、それが見せ掛けだけじゃなくて、カンサイサービスのデモカーだったり、プロドライバーがチューナーと仕上げたナ

き、同時に対称的なスポークが長いRGRに火がついたということがあった。僕はひとつのホイールについて、少なくとも4年はモデルチェンジせず、その必要がないくらい、つくり込んで出すんだけど、意外と後から火がつくものもある。そのときどきの流行じゃなくて、ロングセラーを前提につくられたホイールというのは、「後悔しない……」に対する、ひとつの答えかもしれない。

スポークのサイドカットは最近の流れ。とくにキャストイング(鑄造)系はないと古さを感じるの、ほとんど入れていけるけれど、RS